

うどんの名店が実践する緻密な財務管理と迅速な業績開示

高松市の中心部から車で1時間。徳島県との県境に近い矢筈山の麓に構えているのが、1959年創業の八十八庵だ。屋号の由来である四国八十八所結願の霊場・大窪寺が目の前にあることから、主にお遍路さんが長旅の疲れをいやす場所として愛されてきた。

看板メニューは自家製みそ仕立ての煮汁に、香川県産の小麦を100%使った打ちたて麺と豚肉・ネギ・ニンジン・サトイモなどの食材を煮込んだ「打ち込みうどん」。のどごしの良い食感が持ち味の麺と色とりどりの具材は相性抜群で、みその風味と薬味として添えられたさんしょうの香りが食欲をかきたてる。霊場を踏破したお遍路さんはもちろん、地元の人たちもこの味を求めて足しげく通うという八十八庵自慢の逸品だ。

「香川県は約700軒のうどん屋がひしめき合う、うどんの激戦地。そのなかでも当店の打ち込みうどんは、ここぞでしか堪能できない味」と評判で、巡礼のたびに店を訪れるリピーターも多いです」

こう話すのは店主である井川義雄社長。70歳の今も調理場に立つ、現役のうどん職人である。

八十八庵は4〜5月と9〜11月という気候の穏やかな時期が書き入れ時で、毎年このシーズンになると来店客が殺到。ピーク時には全席が八十八所巡礼の団体客で埋めつくされるといふ。

ところが、好事魔多しと言わんばかりに「創業以来最大の危機」(井川社長)が八十八庵を襲う。コロナショックである。香川県が緊急事態宣言を発出した昨年4月14日を境に、店内での飲食サービスは当面の間自粛を余儀なくされた。店舗では土産物の販売だけを行うようになり、次第に日々の売り上げも落ち始める。



井川義雄社長



(写真上) 打ち込みうどん
(写真下) 八十八庵特製おでん

「大型連休前後は毎年多くのお客でにぎわっていましたが、ここまでひっそりとしたゴールデンウィークは生まれてはじめてでした」と井川社長は述懐する。書き入れ時の収入が激減したことで、さぞかし経営が苦しい状況にある……かと思いきや、八十八庵では緊急事態宣言が出されてすぐに、メインバンクである百十四銀行から3年間無利子のコロナ対策特別融資を受け、後顧の憂いなく事業を継続することができたという。

なぜここまでスピーディーに融資を引き出すことができたのか。その要因を説明する前に、まずは

八十八庵と百十四銀行の関係について見ておこう。

定期的な訪問で課題を把握

八十八庵が百十四銀行と取引するようになったのは1985年のこと。創業者の井川義明氏が工場の建設費用を同行から借りて以来、関係は36年に及ぶ。その間、設備投資や運転資金の調達もさることながら、取引先の紹介や販路開拓など、同行のネットワークを存分に生かしたサポートを絶え間なく受けてきた。

「八十八庵さんは当支店のなかでも比較的長くお付き合いしていま

す。飲食店という業種柄、日々のキャッシュフローが経営に直接響いてきますから、当行としても必要なきに最適なサポートができるよう、積極的にコミュニケーションを取ることを意識しています」(山地一史支店長)

実際に長尾支店には「八十八庵には毎週訪問する」ことが習慣として根づいており、担当者が定期的に井川社長のもとを訪れ、会社の近況や経営課題のヒアリング、最新情報の案内などを行っている。現在、八十八庵を担当している黒田聡介支店長代理は言う。

「毎週月曜は八十八庵さんとの面談日としています。前任者からも『毎週の訪問は欠かさず』と引き継いだので、週1回の面談は当支店の『伝統』と言えるかもしれません」



黒田聡介支店長代理



山地一史支店長



杉浦要介税理士

週次の訪問は先行き不透明なコロナ禍で、効果をいつそう発揮している。特に緊急事態宣言の発令前後には、休業にともなう売り上げの減少をどうカバーするか、アクリルパーテーションやビニールシートといった備品をいかにして調達するかなど、事業を継続するための打ち手を話し合う貴重な機会となった。「定期的に顔を合わせることで、新たな問題に直面してもすぐに相談することができます。」

本当にありがたいですね」と井川社長。そうこうするうちに、話題はコロナ融資へと移っていく。

しかし、いくら危機的状況にあるとはいえ、こと「融資」になると話は簡単に進まない。まとまった資金を借りるには、必要な金額をその根拠となる「数字」とともに説明することが求められる。つ

まり、足もとの業績を経営者自身がしっかり把握していること、必要資金の裏づけとなる最新の業績資料を速やかに準備できることが、借り入れを迅速に行うための条件というわけだ。

では、八十八庵の場合はどうだったのか。ここで、税務顧問を務めている杉浦要介税理士のサポートが絶妙に効いてくる。

八十八庵では、かねてより戦略財務情報システム『FX2』を活用した自計化(会計ソフトを導入して自社で経理業務を行うこと)を実践。さらに、月次決算や杉浦税理士による巡回監査などを通して、タイムリーな業績管理体制を確立してきた。このような緻密な財務管理の仕組みを構築したことは、迅速な融資を引き出す上で有効に働いた。杉浦税理士は言う。



四国八十八カ所結願の霊場 大窪寺

「昨年4月の時点でコロナショックの影響が飲食店を直撃していたので、さらに業績が悪化した場合に備えて必要資金額の予測を立てました。具体的には、八十八庵さんでは『飲食』『土産物販売』『EC販売』の3部門に分けて損益管理を行っており、そのなかでもコロナ禍の影響を被った飲食部門と土産物部門における売上高の減少率（前年同月比）を算出しました。すると、飲食で40%、土産物販売では70%も減少したことが明らかになったので、そこから今後の損失予想を概算で見積もり、必要資金額を計算。結果を月次監査で訪

問したときに社長に報告し、『今後のためにも借り入れを行った方が良いと思います』と提案したのです。このように実効性の高い予測を立てられたのも、TKC方式の会計を実践し盤石な業績管理体制を確立していたからでしょう」

決算書の信頼性が評判

さらに、「TKCモニタリング情報サービス」(MIS)を活用し、決算書や試算表をオンラインで速やかに銀行へ提出していたことも奏功する。驚くべきことに、杉浦税理士がコロナ融資の活用を進言した直後、黒田氏から借り入

れの話が舞い込んできたのだ。「われわれも八十八庵さんの最新業績を把握していたので、自信をもって借り入れを提案することができました。決算書を催促する必要もなく、あらかじめ業績資料を読みこんだうえで面談に臨めるので、会社の状況により適した提案ができるなどMISの効果を感じています」(黒田氏)

続けて、山地支店長はこう言う。

「業績の良しあしにかかわらず試算表は定期的にいただきたい、というのがわれわれの本音です。現実味のある打ち手や改善策を考えるには、会社の現状を表す業績資料が欠かせませんからね。その点、八十八庵さんの会計データは杉浦先生のお墨付きを得ており、信頼性も十分。銀行としても粉飾は懸念事項の一つですが、TKCの会計システムで作成された資料は遡及修正できない分信ぴょう性が高く、安心して企業支援の参考にできています」

こうして、当面の運転資金を確保した八十八庵は6月から営業を再開。その後、少しずつではあるものの来店客の出足も戻り始める。そんななか、いま急速に伸びているのがECの売り上げである。

巣ごもり需要の拡大によって、「八十八庵のうどんを自宅でも楽しみたい」と全国各地から注文が相次ぐようになった。その影響で注文管理や商品の梱包、発送といった新たな業務も増えつつあるという。人員を確保しようにも業績が落ち込んでいるいま、新たに人を雇う余裕はない……。

では、どのように対応したのか。杉浦税理士はこう説明する。

「八十八庵さんでは『FX2』の『銀行信販データ受信機能』や『PX2』のオプションシステムである『電子納税かんたんキット』などを活用し、業務の効率化に取り組んできたので、業務量の増加にも既存のスタッフだけで対応できています。特に『電子納税かんたんキット』は源泉所得税や住民税を会社にしながら納付ができるため、とても重宝されています」

今年で創業から62年目を迎える八十八庵だが、「100年を超えてやつと『老舗』を名乗れる」と、井川社長は事業の継続に並々ならぬ意欲を示す。老舗企業を目指すためにも、八十八庵・百十四銀行・杉浦税理士の3者による連携はより一層重要となることだろう。



COMPANY DATA

有限会社八十八庵
創業 1959年
所在地 香川県さぬき市多和兼割 93-1 (大窪寺門前)
社員数 11人 (パート・アルバイト含む)

